

近畿中部



近畿中部防衛局管内図
青色部分（東海支局管内）
2府7県の防衛に関する情報誌



「近中くん」
近畿中部防衛局のマスコットキャラクター
生年月日：平成19年9月1日（防災の日）
出身：近畿中部地方
名前：近中くん（きんちゅうくん）
職業：徳し業
宝物：手作りのまが玉札
趣味：野球観戦（タイガース、ドラゴンズ、オリックス）
特技：たこ焼き、きしめんの早食い

近畿中部防衛局広報誌

2016

9/10月号



小松基地航空祭
F15 記念塗装機

（写真提供：小松基地広報班）

目次

経ヶ岬通信所に関する動き	2～4
・米軍関係者の安全・安心まちづくりに向けた取り組み～その1（日米合同演奏会・穴文殊祭）	
・第9回安全・安心対策連絡会	
・米軍関係者の安全・安心まちづくりに向けた取り組み～その2（交通安全講習会・地域交流事業）	
日米共同訓練（オリエントシールド）	5
航空自衛隊小松基地航空祭	
自治体めぐり～滋賀県高島市	6
近畿中部防衛局からのお知らせ	7
なるほど防衛豆知識「与那国沿岸監視隊の新編について」	8

米軍経ヶ岬通信所に関する動き

米軍関係者の安全・安心まちづくりへの取り組み～その1

(日米合同演奏会・穴文殊祭)

8月24日(水)、航空自衛隊経ヶ岬分屯基地において、在日米陸軍軍楽隊と航空自衛隊中部航空音楽隊が出演する日米合同演奏会が開催されました。

在日米陸軍軍楽隊は、ノースキャロライナ州キャンプ・デービスにて誕生し、半世紀以上に及ぶ長い歴史を持っています。現在は神奈川県キャンプ・座間を拠点に演奏活動を行っており、全ての年代の方々に楽しんでいただけるように、様々なジャンルの音楽を演奏しています。

航空自衛隊中部航空音楽隊は、全国に5つある音楽隊のひとつで、音楽の専門部隊として活動をしています。吹奏楽団としては幅広いジャンルのレパートリーを持ち、北関東から近畿地方に至る広い地域において演奏会や音楽教室など、様々な活動を行っています。

当日は、それぞれの単独演奏の後、両楽団の合同演奏が披露されました。非常に暑い中、約100名近くの方が来場され、普段は聞けないような本格的な音楽を楽しんでおられました。米軍・自衛隊施設が所在する地元丹後町において、このような演奏会を実施できたことは、地元の方々にとって親しんでいただける良い機会だったのではないかと思います。

また、同日、丹後町の清涼山九品寺において、穴文殊祭が開催されました。穴文殊は地元の方々に「もんじゅさん」として親しまれ、知恵の神様とされる文殊菩薩が祀られています。

穴文殊祭は江戸時代末期から行われている非常に歴史のあるお祭りで、毎年多くの人々が参加し、賑わいをみせています。今年も、例年通り多くの子供たちや家族連れが参加していました。



浴衣を着て踊るカルデナス司令官(中央右側)



在日米陸軍軍楽隊の演奏



航空自衛隊中部航空音楽隊の演奏

屋台出店が多くありましたが、なかでも米軍経ヶ岬通信所が出店したアメリカンフードの屋台が一際賑わいを見せておりました。

また、カルデナス司令官に盆踊りを教えながら一緒に踊る人々の姿がみられ、日米交流の輪がより広がったのではないかと思います。

お祭りの中盤には、同日の日米合同演奏会に出演した音楽隊の隊員が参加して演奏を披露したり、終盤では花火が打ち上げられたり、お祭りは一層盛り上がりを見せていました。

第9回安全・安心対策連絡会を開催

8月31日(水)、米軍経ヶ岬通信所の設置に係る9回目の安全・安心対策連絡会が開催されました。

当局から次の報告を行いました。

- ①抜本的な騒音対策である商用電力の導入について、米側が平成29年10月頃を計画していること。
- ②生活関連施設を整備する第Ⅱ期工事の着工が1年程度遅れ、平成29年秋頃の見込みであること。
- ③通信所に入門しようとする各種車両が国道上に停車し、交通の妨げとならないよう、交通安全の観点から隣接する土地を進入路用地として取得を計画していること。
- ④通算7回実施してきた電磁界強度調査の結果、住民の健康や生活に影響を及ぼすような電波環境の変化は起きておらず、地域の安全性は確保されていると考えられること。

このほか、日米交流や交通安全講習会の実施状況などについて報告をしました。

また、カルデナス司令官からは、職員が家族や友人と離れ言葉の通じない場所で、日米の防衛を支える任務を遂行するために暮らしていることを理解していただき地域社会の一員として受け入れていただけるよう、引き続き支援をお願いしたい旨の発言がありました。

続いて行われた質疑応答・意見交換では、構成員の方々から、宇川地域に新設されている電柱に関する質問や進入路用地取得に関する質問があり、当局から、その詳細をお答えしました。この他、交通安全や軍属の居住地に関するものなど、熱心な質問や貴重な意見が寄せられ、予定の時間を超過して活発な議論が交わされました。また、日米交流事業が市民の間で大変好評であるとの意見もありました。

当局としては、引き続き、この連絡会の枠組みを通じ、関係各機関と良く連携して安全・安心の各種取組を実施してまいります。

なお、連絡会概要については、当局ホームページ

(<http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/tpy-2/index.html>) に掲載しております。



開催状況



カルデナス司令官の挨拶



当局からの説明

米軍関係者の安全・安心まちづくりへの取り組み～その2 (交通安全講習会・地域交流)

京丹後市は、京丹後警察署、京都府丹後広域振興局はじめ関係諸機関・住民団体とともに、住民及び地域社会が一体となって、防犯意識と交通マナーの向上を図ることに努め、安全で安心を感じられる住み良いまちづくりに取り組むことを内容とする「京丹後安全・安心まちづくり宣言」を宣言し、全市的な運動を展開しています。

新たに居住者となった米軍関係者はこの運動に賛同し力を合わせて取り組みを進めようとしています。そのような中で、当局と京丹後警察署は、峰山自動車学校、J A F 京都支部などのご協力をいただき、米軍関係者を対象とした交通安全講習会を開催しています。講習では、日本の交通ルール、地域の交通事情を学び、交通違反等についての解説を受けています。また、実車講習では指導員から道路状況に応じた運転の指導を受けるなどしています。米軍関係者は、講習会に積極的に参加し、各講習にも真剣に取り組んでおり、交通安全意識の向上につながっています。

(交通安全講習会の様子)



他方、米軍関係者は、地域交流を積極的に行っています。米軍関係者及び地域住民が文化など各種交流の促進を通じてより良好な関係を作り上げていくことで理解と信頼の向上に役立つとの思いからであり、京丹後市国際交流協会の協力を得て、市内での在日米陸軍軍楽隊によるコンサート、英会話教室などを開催しています。また、市内のイベントへの参加、袖志海岸の清掃活動への参加など地域の生活者としての仲間、良き隣人として地域住民との関係を大切に各種活動に積極的に取り組んでいます。

当局は、このような米軍関係者の「安全・安心まちづくり」への取り組みに対する支援をして参ります。

(地域交流の様子)



日米共同訓練～ ORIENT SHILD

(あいばの)

8月29日(月)から9月21日(水)までの間、滋賀県高島市に所在する饗庭野演習場において、日米共同訓練(国内における陸上自衛隊と米陸軍との実動訓練(オリエント・シールド))が行われました。日米共同訓練(実動訓練)は、それぞれの指揮系統に従い共同して作戦を実施する場合における連携要領を実行動により訓練し、相互運用性の向上を図ることを目的として、昭和56年から実施しており、同演習場では15回目の実施となりました。

今回の訓練には、陸上自衛隊第3師団第36普通科連隊(兵庫県伊丹市)約900名と米陸軍3-25旅団2-27大隊(ハワイ)基幹約450名が参加し、日米共同で指揮幕僚活動をする指揮機関訓練や、射撃訓練などの機能別訓練を実施しました。

当局は、関係自治体等との連絡調整や不測の事態への迅速な対処のために、同演習場内に現地連絡調整所を開設して各種対応に当たるとともに、米軍訓練部隊の旅団長に対して、安全管理や服務規律の徹底を要請しました。

当局としては、今後とも、自衛隊及び在日米軍の各種活動が円滑に実施できるよう、関係自治体及び住民の皆様の理解と協力を得るための取組を続けてまいります。

現地連絡調整所における調整の様子



米軍への安全要請



航空自衛隊小松基地航空祭～ '16航空祭 in KOMATSU

9月19日(月)、石川県小松市の航空自衛隊小松基地において「'16航空祭 in KOMATSU」が開催されました。当日はあいにくの悪天候に見舞われましたが、7万2千人の方々が来場されました。

F15戦闘機のオープニング飛行が始まると、エプロン地区で見学している来場者から大きな歓声が上がりました。オープニング飛行に続き第6航空団の第303飛行隊、第306飛行隊のF15戦闘機による急旋回や急上昇などを行う機動飛行を実施し、その後、6月に航空自衛隊新田原基地から移転した飛行教導群所属の迷彩柄を施したF15戦闘機4機が第6航空団のF15戦闘機8機と一緒に飛行し注目を集めていました。

飛行展示の最後には天候も回復し、航空自衛隊松島基地に所属するアクロバット飛行チームである「ブルーインパルス」が編隊を維持した状態で旋回や急上昇など高度な飛行技術を披露し、来場者から大きな歓声があがっていました。

他に地上展示や各種イベントが行われ来場者の方々は大いに楽しまれていました。



飛行教導群と第六航空団のF15編隊飛行

(写真提供: 小松基地広報室)

自治体めぐり～滋賀県高島市

饗庭野演習場の所在地である高島市は、「水と緑 人の行きかう高島市」を目指して街づくりを進めています。

平成 27 年に滋賀県の「琵琶湖とその水辺景観～祈りと暮らしの水遺産～」が日本遺産に認定され、高島市においては、湖の中の鳥居が印象的な「白鬚神社」、湖岸の防波石垣が独特の景観を生み出している「海津・西浜・知内」、奈良時代最大の内乱とされる藤原仲麻呂の乱の最終決戦地で有名な「大溝」、生活の中で水を巧みに利用したカバタ文化で有名な「針江・霜降」の水辺景観などが構成要素となっており、豊かな水と共に生きる人々の暮らしの文化が今も残っています。

また、これらの良質で豊富な水を生かし、近江米、野菜などの農産物、ウナギやつくだ煮などの水産品も豊富で、特に鮎ずしや日本酒など日本の伝統食である発酵食文化が色濃く残る、上質で豊かな暮らしが営まれている地域でもあります。これらの豊かな恵みは、ふるさと納税でお届けすることもできますので是非ともご利用いただき、饗庭野演習場所在地の高島市へご支援をお願いします。(写真提供：滋賀県高島市)

古き港町の面影

海津・西浜・知内の水辺景観

重要文化財的景観



時間帯により様々な表情を見せる大鳥居

白鬚(しらひげ)神社

重要文化財(建造物)



静かな郷に生きた水が巡る

針江・霜降の水辺景観

重要文化的景観



水を使う知恵を伝える

大溝の水辺景観

重要文化財的景観



近畿中部防衛局からのお知らせ

大阪府高齢者大学における講演

7 月 13 日（水）、当局城戸次長は、大阪府高齢者大学校において、「日本の防衛について」をテーマに講演を行いました。

講演は、まず始めに当局の業務・活動について紹介し、引き続いて平成 27 年度版防衛白書に基づき、わが国の防衛についての説明を行いました。

受講生からは、「日本の防衛の取り組み、仕組みがよく理解でき、大変勉強になった。」「日米安保体制の重要性を再認識した。」など、有意義な講演であったとの感想をいただきました。

当局では、わが国を取り巻く国際情勢や安全保障政策等について、より一層国民の皆様に関わりやすく説明すべく、自治体や学校等からの要請により講師の派遣を行っております。

お気軽にお問い合わせください。

【講師派遣についての問い合わせ先】

近畿中部防衛局 企画部 地方調整課 地方協力確保室
TEL: 06-6945-4956



平成 28 年版防衛白書の地方自治体などへの説明

平成 28 年版防衛白書は「わが国を取り巻く安全保障環境」、「わが国の安全保障・防衛政策と日米同盟」、「国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取り組み」の 3 部で構成され、各部において分かりやすく記述しております。

当局は例年、陸・海・空自衛隊及び自衛隊地方協力本部と連携し、近畿 2 府 4 県、北陸 3 県の地方公共団体（府県及び市町村計 258 団体）や関係団体などに対し、防衛白書の紹介及び概要の説明を行っています。この防衛白書の説明は、わが国の防衛政策や防衛省・自衛隊の各種施策について、ご理解を深めていただくとともに、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図ることを目的としています。

また防衛省ホームページ

（<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/index.html>）にも掲載されており、当局としては 1 人でも多くの方々に防衛白書に目を通していただけることを願っております。





なるほど防衛豆知識

(よなぐに)

質問：与那国沿岸監視隊の新編について

回答：

(とうしょ)

わが国は、約6,800の島嶼を抱えており、そのうち約1,000の島嶼が存在する南西地域は、部隊配備上の空白地域を形成しています。さらに、近年の厳しい安全保障環境を踏まえ、防衛省・自衛隊では、各種事態発生時に自衛隊部隊が迅速かつ継続的に対応できるよう、南西地域の防衛体制を強化しています。

このような考えの下、3月28日に、南西地域における常続的な監視態勢の整備のため、与那国島に沿岸監視隊を新編しました。

与那国島の人口は、もともと約1,500人程度であり、その2割近い約250名の隊員や家族の住環境を整え、受入れを実施するにあたっては、地域の方々の多大な支援を頂きました。

また、災害を含む各種事態発生時に迅速に対処する警備部隊等の配置先として、奄美大島、宮古島及び石垣島を選定し、地元の理解を得つつ、現在検討を進めているところです。

与那国沿岸監視隊の新編

・安全保障環境に即した平素からの部隊配置の推進



(陸上自衛隊パンフレットより抜粋)

(写真提供：西部方面総監部広報室)



与那国沿岸監視隊長へ隊旗の授与



与那国駐屯地

■ ご意見・ご感想等募集 ■

近畿中部防衛局では、今後も防衛省・自衛隊の様々な活動や当局の取り組みなどを皆様に分かりやすくお知らせしていきたいと考えております。

本誌に対する皆様のご意見・ご感想などがありましたら、何でも結構ですでお聞かせ下さい。皆様方のご意見を参考にさせていただき、より良い誌面作りを目指していきたいと思っております。

(住所)

〒540-0008

大阪市中央区大手前4丁目1-67

近畿中部防衛局

広報編集委員会(報道官気付)

(電話・FAX)

TEL 06-6945-4953

FAX 06-6910-5669

(メールアドレス)

goiken@kinchu.rdb.mod.go.jp

近畿中部防衛局では、防衛省の地方拠点としての役割を果たすため、国民の皆様から防衛行政全般にわたる緊急の連絡、情報提供に対応できる体制を確保しております。

夜間及び休日の緊急連絡先

TEL・FAX 06-6945-5381

KINKI CHUBU

2016年9/10月号(通算第44号)

平成28年10月発行

近畿中部防衛局
広報編集委員会

TEL 06-6945-4953

URL <http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/>

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

近畿中部防衛局広報誌**近畿中部**は、近畿2府4県及び北陸3県所在の自治体、大学図書館及び公立図書館などに無料で配布しています。ご希望があれば、他の機関へもお届けしますので、お気軽にご連絡ください。